

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 12日

事業所名 わかばタウン菰野

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		ラティス等でスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		スタッフ数、有資格者を利用者に合わせて配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		全体や個別に知らせるためのスケジュールボードや片付ける場所の写真を掲示し、視覚的に分かりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		ラティス等でスペースを確保している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善の会議は全員が参加している。参加できなかった場合は議事録や口頭で伝えている。	
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価アンケートの配布、回収をしている。	
	5	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	5	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていない。
	5	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		会社の内外で研修を行っている。(虐待防止、マネジメント等)	
適切な支援の提供	5	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	5	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	5	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	5	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		毎日のミーティングや支援会議を行い記録を残している。	
	5	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	5	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達や年齢に合わせて変化させている。	
	5	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	5	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	5	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	5	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	5	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			

関係機関や保護者との連携	5	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	5	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	5	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	5	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		そのような場を積極的に設けていく。
	5	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		児童発達支援から放課後等デイサービスへ移行する機会がまだないが、支援内容等の情報共有と相互理解を図るために積極的に場を設けていく。
	5	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		県や市が主催する研修に参加している。	
	5	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		利用者が利用する時間に保育所等と交流する時間が合わない。
	5	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		積極的に参加していきたい。
	5	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用日には連絡帳や口頭で様子を伝え、電話やメールも連絡手段としている。	
保護者への説明責任等	5	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		相談支援員からの情報や、保護者からお伺いした話を基に、必要に応じて助言または関係機関の介入がある。	
	5	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		会社の利用規約、規定に基づいて口頭でお伝えしている。	
	5	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	5	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		計画を立て、定期的に開催していく。
	5	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		記録に残している。	
	5	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	5	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	5	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		秘密保持に徹し、できる限り口頭でお伝えし、書類は厳重に保管するように伝えている。	
	5	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	5	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	5	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	5	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	5	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	5	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	5	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		身体拘束が必要なケースがないため行っていない。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月12日

事業所名 わかばタウン菟野

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習室を設けたり、ついでに、ラティスなどで区切り、スペースの確保をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		保護者のニーズを聞きながら日々の利用人数を調整している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		玄関入口の段差がないようにしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		スタッフ全員で毎日振り返りをし、次につながるよう共通理解をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		放デイ向けの研修参加、社内研修、事業所内で発達支援の書籍を読み合わせ等を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		送迎時などに保護者と話し、ニーズを把握しながらスタッフ全員で支援計画を評価しながら次の計画を進めている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は活動時間が短時間になるのでその時間でできる課題設定を考え、休日、長期休暇はその時しかできない課題を考えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の活動内容については、スタッフ間で打ち合わせをしているが、役割分担については細かくできていない時もあるので今後確実にやる。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校と連携が取れるようこちらからアプローチしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在は利用者がいないが、受け入れる場合は連携を取りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		支援ファイル等を用いて情報共有と相互理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在はそのようなケースがないが、これから機会があれば支援内容等の情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		そのような機会が地域にあれば活動していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		相談支援員からの情報や、保護者からお伺いした話を基に、必要に応じて助言または関係機関の介入がある。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談を受けるものの、保護者の悩みを改善するのが難しいケースもあり、必要な支援ができるように学習する必要がある。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		計画を立て、定期的に開催していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月一回おたよりを発行し、知らせている。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		スタッフには周知している。保護者の方にも周知していくように努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束が必要なケースがないため行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		除去物質を含む食物については保護者に細かく確認をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		都度記入している。	